

平成 29 年度ひまわり園事業報告

【 事業概要 】

平成 29 年度は、自律（自立）、友愛、社会参加の 3 つの支援を基本方針として、生活介護（定員 24 名）・就労継続支援 B 型（30 名）・就労移行（6 名）の 3 事業を基本に、居宅介護事業（ライフサポートをつなぐ）を加え、関係機関や団体、他施設、地域との連携、協働を通して、一人ひとりのニーズに合わせた福祉サービスの提供に取り組みました。

園が管理しています障がい福祉サービス事業の総収入は対予算比で減となりましたが、支出では 13,000 千円ほど抑えることができ、順調に推移していると思います。

生産、販売活動におきましては、園全体の売上 17,214 千円で対前年度比 9% の減でしたが、材料費の見直しなどおこない、純売上は 10,093 千円、0.15% 減に留めることができました。

天神のカフェサンフラワーにつきましては、市役所 1 階の障がい福祉事業所運営のカフェとの競合もあり、依然として厳しい経営環境にありますが、対前年度比 444 千円 (10%) の売り上げ増とすることができました。

利用者支援につきましては、自分でできることを継続し増やしていくことを重視した支援に取り組みましたが、その中で、利用者の重度化、高齢化の課題が出てきた年でもありました。また、ご家族の疾病や高齢化により利用者への関わりや家庭環境の変化も見られ、ホームヘルパー等、外部の支援を受けることや、グループホーム等の利用に慣れておくことも、対策として大事であることを感じさせられました。ひまわり園の利用者でグループホームに 7 名が入居されています。

1 利用者状況

(平成 30 年 3 月 31 日)

項目	内容
定員（実利用）	60 名（69 名）
男女別	男性 33 名 女性 36 名
平均年齢	全体 38.4 歳 男 36.0 歳 女 38.6 歳、 最高齢 68 歳 最年少 19 歳
障がいの程度	A1：10 人 A2：35 人 A3：3 人 B1：16 人 B2：5 人
住居	西：37 人 早良：17 人 城南：5 人 中央：5 人 南：2 人 博多：0 人 東 2 人 市外 1 人

2 事業名及び人数

(平成30年3月31日)

事業名	利用者定員	登録数			支援員
		男性	女性	合計	
生活介護	24	14	14	28	10.7名
就労継続B	30	18	19	37	5.7名
就労移行	6	1	3	4	1.5名
合計	60	33	36	69	

園長（管理者）・副園長（サービス管理責任者）・看護師・嘱託医・事務員

3 生産品売上高

園全体 売上げ 17,214 千円

生活介護 売上げ 352 千円

就労継続B 売上げ 16,862 千円

4 事業別活動状況

(1) 生活介護事業

生活介護事業における生産活動は自主製品（陶芸・木工・手芸）の製造販売に加えてそれぞれの特性に応じて封入、ポスティング等の仕事も取り組みました。また、外部講師の指導による、月一回の創作活動やレクリエーションを実施して内容の充実を図りました。利用者支援につきましては、重度障がいがある利用者の受け入れが可能となるよう職員体制の質・量の充実を図りました。

(2) 就労継続支援事業B型（パン・製菓・カフェ）

- ① パン・製菓・カフェのB型事業全体の売上げは、16,862 千円でした。パンは販売機会も定着し、対前年比で純売上を増加することができました。製菓はときめきセレクションで入賞できました。カフェも創意工夫によるメニューの開発等で売り上げを伸ばすことができました。パン、カフェ、製菓は広報紙等に取り上げていただくこともあり、効果があつたように思います。
- ② 地域を中心に多数のバザー、販売会に出店しました。
- ③ 施設外就労としては、セルフセンターを通じて「倉庫内作業」（コンテナケース組立、整理等）に取り組みました。
- ④ 工賃はB型の支給総額で5,651 千円、一人当たり平均月額 15,028 円となりました。
- ⑤ 1名、一般就労へつなげることができました。

(3) 就労移行支援事業

通常はパン班やカフェでの作業、ひまわり園内のショップでの販売に従事して就労に向け、意欲の向上や対人関係などの基礎を経験しながら、個別のニーズに基づき、関係機関と連携して、就労支援セミナーや実習に積極的に参加しました。1名、一般就労につなげることができました。

5 余暇支援

(1) クラブ活動

毎月1回外部から専門の講師を招き、文化的余暇活動（茶道、書道、絵画）と体育的余暇活動（エアロビクス、ウォーキング、軽運動）を実施し、日常の作業から離れ、リフレッシュするなど余暇に対する関心を高め充実を図りました。

(2) 休日余暇活動

毎月第2、第4土曜日、また休日のイベント時、希望者に余暇活動を実施し、年間23回、延べ303名の参加がありました。利用者の要望等を基にカラオケやボウリング、ショッピングモールでの買い物、DVD鑑賞等を実施しました。

(3) イベントや招待行事等につきましては、随時案内し、社会参加、体験の機会を提供しました。

6 健康管理と防火管理等

(1) 利用者全員を対象に医療機関（マリン病院・なかにわメンタルクリニック）による健診を2回ずつ実施。また、胸部レントゲン検査、血液検査も実施しました。その結果を基に看護師による健康相談を行い、生活習慣病の予防に取り組みました。

(2) 防災、防犯に対する関心と避難行動の習慣化を意識づけるため避難訓練を2回実施しました。また、地域防災活動にも参加しました。

(3) 定期的に施設内の安全点検を行い、破損、危険箇所の早期発見と改善に取り組みました。

(4) ヒヤリ・ハットの提出により職員間の情報の共有化を図り、危機管理への意識を高めました。

7 その他の取り組み

(1) ふれあい旅行・日帰り旅行

見聞を広め、また社会的マナーを学ぶこと等を目的に、1泊2日の旅行（山口方面）と日帰り旅行（唐津方面）にグループ分けし、実施しました。

(2) 利用者代表者会

利用者11名による「代表者会」を毎月2回開催し、施設サービスに関する意見聴取の機会を設けました。2月には代表者会メンバーによる司会進行で「みんなの声を聞く会」を開催して意見交換を行いました。仕事に関することについて等意見発表が行われました。

(3) 保護者会への出席

毎月開催されるひまわり園保護者会に出席し、施設の運営状況等について説明し理解、協力を求め意思の疎通を図りました。また、花壇の手入れもご協力頂きました。他におやじの会が2ヶ月に1回開かれ職員との意見交換や交流を図りました。

(4) 職員研修

① 法人内研修

新人職員に対する研修や、法人内職員による「実践発表研修会」に参加しました。虐待防止委員会による障がい者虐待防止に関する研修、保護者会主催の研修等に参加しました。

② 施設外研修

育成会関連の研修（全国、九州）、社会就労センター、日本知的障害福祉協会、県社協、市社協等の研修に勤務経験や職務内容に応じて参加しました。会議等で報告し職員間の情報の共有化を図りました。

(5) 利用者送迎

毎日計5台の施設車で利用者の送迎を実施しました。多い時は30名の送迎を実施していますが、まだ送迎の希望者は多い状態です。

8 地域との交流

(1) 5月に地域懇談会を実施し、地元自治会や学校関係の方々に施設運営や利用者の現状について説明し施設への理解と協力をお願いしました。10月に地域やボランティアの方々の参加協力を得て「阿古女祭」を開催し天候に恵まれ多くの来場者があり、商品購入やステージイベント等を楽しんでいただきました。また3月には「感謝DAY」を開催しました。

(2) 施設見学や、大学、専門学校学生の実習等を積極的に受け入れ障がい者への理解や啓発に努めました。

(3) 事業所内売店（ショップひまわり）で原則として毎日、地域の方を対象にパンやクッキー等の製品を販売しました。また、地域清掃活動を実施し環境美化に努めました。さらに地域老人クラブに施設の貸し出し等を行い、地域における社会資源としての活用促進に協力しました。

9 苦情受付状況

保護者、地域の方等からのご意見やご相談には、その都度話しをする機会を設けました。あわせて利用者との関わりや保護者、保護者会との情報交換等気軽に話せる環境の整備に努めました。苦情はありませんでした。

10 地域における公益的な取り組み

「ふくおかライフレスキュー事業」に参画し、生計困難者等に対する相談支援事業の事例報告、検討等が行われている、福岡市西区連絡会に参加しました。ひまわり園として、サポーターの配置や実践はありませんが、今後の取り組み方も含めて検討しています。